

石巻ボランティア活動に参加して

平成 24 年 4 月 13 日 ~ 15 日
新座山の会 E.U

こんな年寄りが行ってもお邪魔になるだけでは？と担当の方にお聴きしたら被災地を訪ねることに意義があるとのことで、その目的のみで参加させていただきました。

活動は牡鹿地区のボランティアセンター（VC）に当日ごとに申請を出してその指示のもとに場所と時間が決められ終わったらセンターに報告することで終わります。



14 日朝、活動時前に時間があつたので「見学するとよい」と薦められていた牡鹿半島の最先端と金華山を見に行きました。半島と島が津波の力で「モーゼの

十戒」の話のように海だったところが地続きになる現象が起きたところです。実際に目撃した人から聞いたという人が説明してくれました。津波が島をはさんだ両側から押し寄せ半島との間で大音響と共にぶつかり水が引いていって地底が見えて地続きになったということでした。大自然の大いなる力に、一同興奮を覚えました。金華山には人は住んでいないが、登山道が壊れてしまったので、その面で労山の会員の協力、それも高



い登山技術のある人が求められているとのこと。今は島への船が出ないので自分で船をチャーターする必要があるそうです。VCに戻り、活動場所を指示されてそちらに向かう。大きなバスで来ていたボランティア団体も、一人埼玉から夜行バスで来て路線バスを乗り継いできた女性も我々と同じ場所でした。大きな瓦礫は片付いていましたが、細かいゴミ

みや石等を拾い集め種類別に分ける作業でした。ホタテの養殖の村で、養殖に使う貝も使えそうなものは分けて集めるのでした。曇り空で風も冷たく寒かったが、雨には降られずに助かりました。3時半に作業が終わってから、高い所で残っている神社に登ってみるとお社のすぐ下の階段まで壊れていました。ここから海を見ると被災当日の地獄を



想像せざるを得ません。見学を予定していた女川港に向かいました。途中幾つもの消滅してしまった村や町、人気の無い地区を通り過ぎて女川港につきました。海から 20mの高台にある大きな病院のさらに一階の天井まで津波が来たという印が、今では世界の赤十字の支援で復活している新しい建物の柱に刻まれていました。片隅には犠牲者の供養のための仏様が

が安置されていたので皆、手を合わせることができました。被災者の人が我々のような見学者に被災の様子を説明してくれていました。そして下の漁港には横倒しになった鉄筋コンクリートのビルがそのままになっている。どこを見ても津波の爪跡をこれでもかというくらい見せ付けられる。道路も亀裂が入ったり歪んだり、路肩の崩落もある。そして児童の大多数が命を奪われてしまった大川小学校のある地へ向かった。被災前は立派であったろう校舎の鉄筋が剥き出し折れ曲がっている。供養のお地藏様が我々を迎えて下さっているので、とにかく手を合わせて在りし日の学校の様子を思い浮かべました。何も無い校庭に立った時、ここに集められて避難誘導を待っている子供たちの姿を思ったら胸がいっぱいになり苦しくて居たたまれない気持ちになりました。現場に立つということはこういうことなのかと思いました。宿泊先の水沼センターへ戻り食事をしながら、活動のお世話してくださっている元石巻労山会長の岡さんのお話を伺いました。ボランティアを受け入れるためのシステムを作ってくくださったから我々もスムーズに活動に参加できるのだということがよく分かりました。各団体との連絡、調整など大変ご苦勞なさっていられるようです。

15日は、昨日の場所近くの道路わきの瓦礫処理でした。ここは狭いところでしたが、ゴミが多く車のバンパーなどが多かったです。倒れている木を鋸で切ったりする仕事もありました。集めたゴミをネコ（一輪）車に乗せて 100m位、離れた所に運びます。





今日集まったのは外国の人が多い8人くらいのグループ、昨日も一緒だった埼玉の女性と我々だけで数としては少なかったです。昨日と違って天気も好く風も無くて汗ばむ陽気でした。今日はお昼までの予定でしたのでVCまで戻り、近くのプレハブのミニ商店街で昼食をとり石巻市内に向かいました。広い道路の真ん中に流れ着いた大きなタ

ンクはそのまま保存されるとか。何も無くなってしまったただただ広い平らな町の跡でした。町を見下ろせる日和山に登りました。鹿島御子神社があって普段ならお花見の名所のような感じでした。被災地見学の人々が多数きていました。震災前は松の木越しの海を眺める見晴台なのに。ここから帰路につきました。

震災直後のめちゃくちゃという光景ではないが1年の余過ぎた今でも復興にはまだまだ程遠い現地を見させてもらいました。やはり心漬れる想いで東京に戻ってきました。